

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2023年 第13週（3月27日～4月2日）

## 今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

### 定点把握感染症

「RSウイルス感染症 引き続き増加」

第13週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,227例であり、前週比8.6%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.01、1.12、0.57、0.18、0.17である。

感染性胃腸炎は前週比16%減の781例で、南河内6.38、泉州5.30、大阪市西部4.90、北河内4.64、堺市4.17であった。

RSウイルス感染症は16%増の219例で、大阪市北部3.21、泉州1.65、大阪市南部1.44である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は12%増の111例で、大阪市北部1.07、北河内1.00、大阪市南部0.83であった。

咽頭結膜熱は17%減の35例で、大阪市西部0.40、三島0.35、大阪市東部0.29である。

インフルエンザは47%減の503例で、定点あたり報告数は1.69であった。南河内3.17、大阪市西部2.33、豊能1.74、堺市1.71、北河内1.65である。

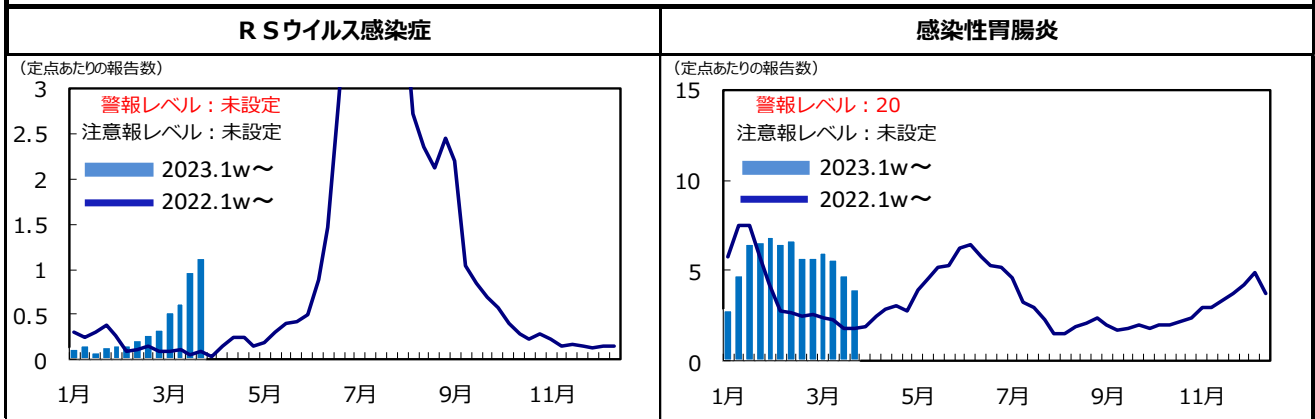


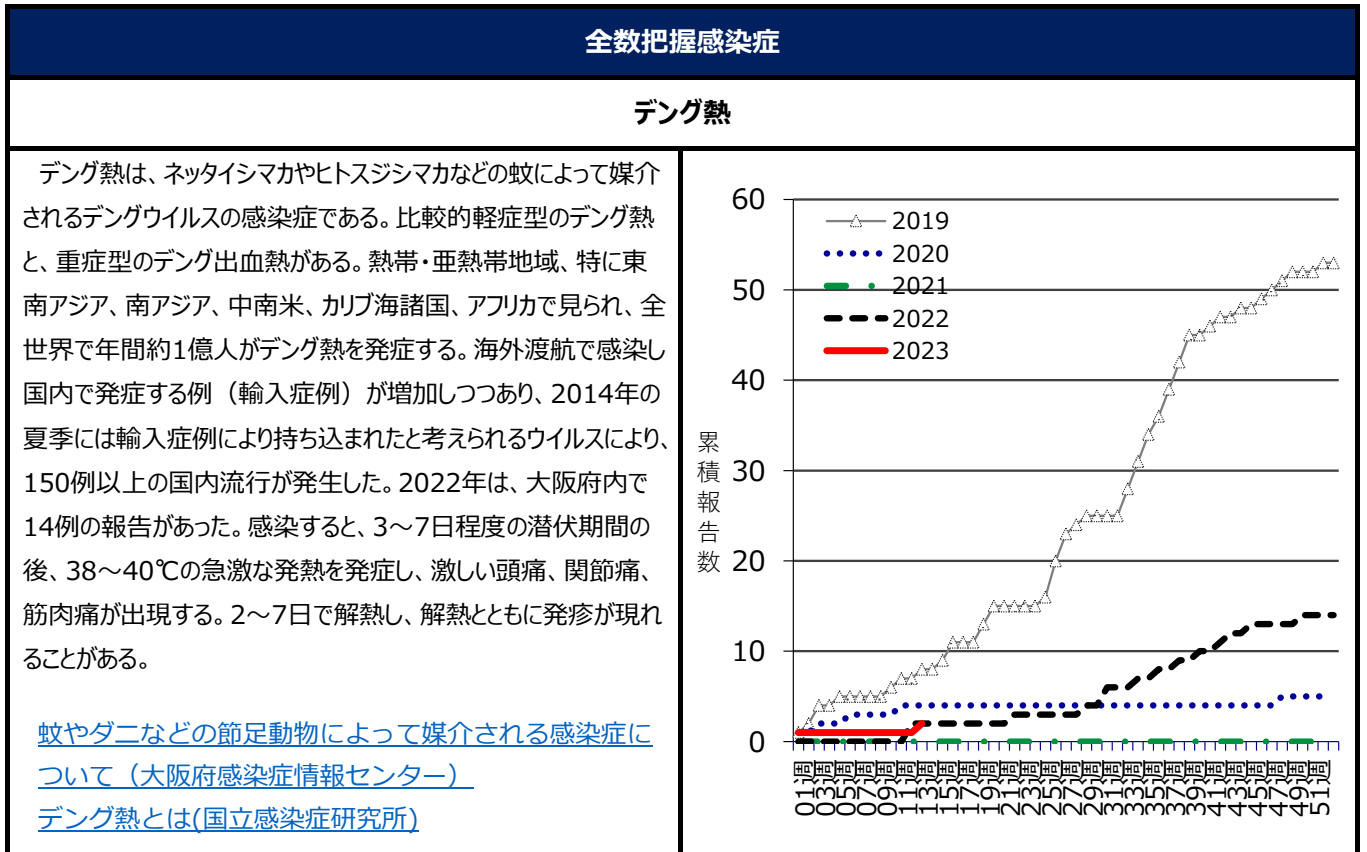
表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2023年 第13週3月27日～4月2日）

第13週の順位	第12週の順位	感染症	2023年 第13週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2022年 第13週の 定点あたり 報告数	2023年第13週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	4.01	16%減	1.82	1歳_14%
2	2	RSウイルス感染症	1.12	16%増	0.09	1歳未満_31%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.57	12%増	0.27	4歳_21%
4	4	咽頭結膜熱	0.18	17%減	0.10	1歳_49%
5	5	突発性発しん	0.17	13%減	0.28	1歳_65%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	1.69	47%減	0.00	20歳以上_21%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

## 第13週のコメント

～ デング熱 ～ 海外に渡航される方は、蚊に刺されないように、服装に注意し、虫よけ剤を使うなどしましょう



**表2. 大阪府全数報告数（2023年 第13週3月27日～4月2日）**

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ( ) 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村別										府内累積報告数			
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内					
4類感染症	サル痘	1	1										8			
	デング熱	1											1	2		
	レジオネラ症（肺炎型）	3	1 1										1	25		
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	1	1											1	34
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1											1	22		
	後天性免疫不全症候群	1											1	17		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1											1	6		
	侵襲性肺炎球菌感染症	1											1	29		
	梅毒	23	2										1	20	440	
	百日咳	1											1	7		
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	2,730	2020年1月以降累計 2,827,738													
結核 (2023年2月分)	結核 新登録患者数：45名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 20名) (府内累積報告数 112名、内 肺・喀痰塗抹陽性 42名)															

(2023年4月4日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降』の情報をご覧ください。](#)